

# 芦屋こぼとぼっぼ保育園 施設自己評価

実施月: 2026年3月

- \*スコア 4:理想的な状態  
 3:工作上支障はないが改善の余地がある  
 2:円滑に進めるには改善の必要がある  
 1:できていない、または大幅な改善が必要

No.	評価項目	スコア	施設長振り返り
1	<b>基本的理念と社会的責任</b>	4	<p>1-5子ども達の意見や、願いを聞いて、主体的活動へと意欲を持ち繋げることが出来たのではないかと思います。</p> <p>1-3性差への先入観については、職員のなかに以前より浸透してきた。担任以外の短時間勤務の職員へも浸透できるようにしていきたい。</p> <p>1-2幼児クラスが外国の文化、国旗に興味を持ち、外国の方と触れ合う機会を持つことができた。</p>
1 - 1	子どもの最善の利益を考慮して、最もふさわしい生活の場となっている	4	
1 - 2	子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを互いに尊重する心を育てるよう日々保育が行われている	4	
1 - 3	性差への先入観による固定的な観念を植え付けないよう日々保育が行われている	3	
1 - 4	子どもの特性や発達過程に応じ、発達のねらいや方針に即した援助ができています	4	
1 - 5	子どもの主体的な活動を促し、意欲を持って活動できるような援助ができています	4	
2	<b>保育の配慮事項</b>	4	<p>2-4個人情報の取り扱いについて、保護者アンケートでご意見を頂いたので、職員間で再度共有し、徹底していきたいと思う。</p>
2 - 1	子どものその時々のお気持ちを受けとめて保育が行われている	4	
2 - 2	職員が入園から就学（卒園）までの発達の連続性をイメージ・理解して保育をしている	4	
2 - 3	園内や保育室など、子どもが安心できる雰囲気を作ることを中心として環境を構成している	4	
2 - 4	個人情報の取り扱い方についてマニュアル等が整備され、職員へ理解を促すことが出来ている	3	
2 - 5	保護者のご意見・苦情に対する対応をマニュアル、研修などで周知されていて、発生時は適切に対応できている	4	
3	<b>計画・評価・育ちの見直し</b>	3.8	<p>年間計画、月案、週案を通して計画を立てて、月1回の会議での振り返り、半年に1回の半期振り返り、年度末の総括での振り返りを行い、現状を見直す体制を取っている。</p> <p>3-5職員の自己評価は実施して面談を行っているが、課題や目標などが明確になっていないので、R8年度は、個人の目標を掲げ長所や課題を見つけられるように改善していきたい。</p>
3 - 1	全体的な計画、年間指導計画により、長期的な見直しをもち、職員が共有し、ディスカッションできる場がある	4	
3 - 2	保育目標やねらいをベースに、各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画を作成している	4	
3 - 3	日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して、年案、月案、週日案が作成されている	4	
3 - 4	子どもの実態や状況の変化に応じて、保育の振り返り、見直し改善を行っている	4	
3 - 5	職員がチェックリストによる自己評価を実施し、自身の長所や課題を発見し、園長の支援のもと改善に努めることが出来ている	3	
4	<b>特別支援・障がい児保育</b>	4	<p>月に1回インクルーシブ会議を行い、子ども達の状況を共有することが出来た。また、保護者の方とも、定期的に懇談を行い、園での様子、家庭での様子を話すことができた。</p> <p>今後も、保護者と園とで連携を深めながら、子ども達の育ちを見守っていききたいと思う。</p>
4 - 1	障害のある子どもの特性に合わせた個別支援のための計画を立案している	4	
4 - 2	園内外問わず、職員が研修等を通じて障害児保育に必要な知識を得ることができる環境を整えている	4	
4 - 3	障がいのある子どもの保護者と話す場を定期的に設けられ、信頼関係の構築に努めている	4	

4 - 4	障がいのある子どもの保護者に就学など将来の方向に関しての情報提供や相談に応じている	4	
<b>5</b>	<b>乳児保育のねらいと内容</b>	<b>4</b>	
5 - 1	発達に応じた行動（立つ、歩くなど）を自発的に行えるような環境づくりをしている	4	乳児クラスが、安全に過ごせるよう、室内の環境や、玩具など適切に整えた。 看護師、栄養士と共に、健康状態、離乳食の事など密に話し合いながら進めることができた。
5 - 2	離乳食は、保護者、栄養士（調理員含む）と密に連携をとり、子どもの状況に配慮して提供している	4	
5 - 3	午睡中はセンサーの使用問わず、体を仰向けにすることを職員全員が認識し、体温、顔色、呼吸のチェックをしている	4	
5 - 4	生活や遊びの中で、音・形・色・手触りなどに気づかせてさまざまなものに触れさせている	4	
5 - 5	発声や喃語等を優しく受け止め応えることで、言葉の理解や発語の意欲を育てている	4	
<b>6</b>	<b>1～3歳未満のねらいと内容</b>	<b>4</b>	
6 - 1	子どもが自分でやろうとする、出来るようになろうと頑張る主体的な気持ちを尊重した保育が展開されている	4	発達に応じた、環境や、遊びを提供し、安全安心できる中で、教育保育出来たのではないかと思う。 今後も、集団生活の中で、子ども達同士群れあいながら成長してほしいと思う。
6 - 2	他の子どもとの関わり方や集団生活を発達に応じて身につけられるよう日々保育が工夫されている	4	
6 - 3	自分の思いを伝えたり、相手の思いに気づいたりする経験を重ねていけるよう援助している	4	
6 - 4	公園や園庭など、積極的に戸外遊びを取り入れて身体の発達を促している	4	
6 - 5	感覚の働きを豊かにする遊びや、全身を使う遊びを取り入れられるよう活動内容を工夫している	4	
<b>7</b>	<b>3歳以上児のねらいと内容</b>	<b>4</b>	
7 - 1	生活に必要な基本的な習慣や態度が身につくよう、目標やねらいに基づいて保育が展開されている	4	落ち着いた、園生活が送れるように教育保育が展開された。  異年齢の関わりを持つことで、相手を思いやったり、小さいクラスのお友達に優しく接することができ、思いやりの気持ちが育っていると感じた。 また、それが自信になり、自己肯定感、自己効力感へと繋がったのではないかと思う。
7 - 2	園内外の危険な場所を職員が把握し、安全に気をつけて遊ぶように声掛け、働きかけが行われている	4	
7 - 3	友達と遊びを一緒に工夫、協力したり、共に達成感が味わえるように声掛け、働きかけが行われている	4	
7 - 4	生活や遊びの中で、自分の体験や要求を自分なりに表現できるように声掛け、自信、自己肯定感を持てるよう工夫されている	4	
7 - 5	友達との関わりを通して、相手を思いやる気持ちを持てるように声掛け、働きかけが行われている	4	
<b>8</b>	<b>健康支援</b>	<b>4</b>	
8 - 1	職員が、感染症に対する園の方針やマニュアルのポイントを理解し、行動している	4	感染症に関して、園マニュアルで共有をするとともに、嘔吐処理等の研修を通して、知識を深めることができた。健康診断結果は、アプリを通して保護者に知らせ、受診が必要な場合は、個別に受診をするように看護師より進めてもらっている。 アレルギー対応は、給食職員と連携し、誤食無いように、トレーや皿の色を変えたり、献立確認も徹底しておこなっている。
8 - 2	健康診断と歯科検診の結果について、保護者や職員同士の共有が速やかに行われている	4	
8 - 3	子どもの出生時から入園までの発育・発達の状況が十分に職員間で共有されている	4	
8 - 4	食物アレルギー児への対応として、誤食が起きないための対策が講じられており、職員が理解している	4	

8 - 5	保護者から与薬の要請を受ける場合や子どもに与薬する場合の対応方法を職員が理解し、適切な処置をしている	4	<p>。。</p> <p>畑で野菜を子ども達が育て、クッキングで、カレーライス、焼きそば、さつま芋焼きなどを作る体験ができた。また、収穫した野菜を持ち帰り、家族と調理したり、味わう時間を持てたのも良かったと思う。</p> <p>幼児クラスには、3つの栄養指導、お箸の持ち方、食事のマナーなど栄養士が指導を行い、より食に対して、興味関心を持ったのではないかと思う。</p>
<b>9</b>	<b>食育の推進</b>	<b>4</b>	
9 - 1	子どもが意欲的に食に関する体験ができるよう、具体的な食育計画を作成している	4	
9 - 2	乳幼児に身につけておきたい挨拶や姿勢、食具の持ち方など食事のマナーを伝えている	4	
9 - 3	調理員、栄養士、保護者と連携し、個々の食物アレルギーなどの情報共有を定期的に行っている	4	
9 - 4	子どもが栽培、収穫したものや調理したものを食べる機会をつくるように心がけている	4	
9 - 5	園での食育活動をお便りや連絡帳などを活用して保護者に周知することが出来ている	4	
<b>10</b>	<b>安全管理</b>	<b>3.8</b>	<p>重大事故防止に関しては、マニュアルを確認したり、水遊び、プール前には、プールマニュアル会議をして、安全面について確認を行っている。ヒヤリハットの定期的な報告も行い、職員間で共有できた。</p> <p>日々の安全点検を毎月行い、危険箇所があれば、園長に報告して改善していった。</p> <p>夏季中は暑くて園外に行けなかったが、秋になり散歩が増え始める頃に、近隣の安全点検を再度行っていかなければならないと感じた。</p>
10 - 1	これまで園内で起こった事故およびヒヤリハットを職員全員が理解し、定期的に報告、共有の場を設けている	4	
10 - 2	睡眠中、水遊び中、食事中などの場面で重大事故が発生しやすいことを職員が認識し、事故防止に努めている	4	
10 - 3	事故防止や安全管理に対する国の方針や園のマニュアルなどが整備され、職員が理解し、実践している	4	
10 - 4	園内の設備、玩具、用具などの点検の仕方を職員が理解し実践している	4	
10 - 5	日常的に利用する散歩経路や公園などの異常や危険を察知し、必要に応じて点検している	3	
<b>11</b>	<b>環境・衛生管理</b>	<b>3.67</b>	<p>感染流行時には、看護師が保育室や、共有部分の消毒を1日2回行い感染対策に努めた。年に数回頭じらみが発生したので正しい対処に仕方を手紙で配布する。活動に夢中になると、室内温度が上昇していることがあるので、定期的にチェックしていきたい。</p>
11 - 1	子どもが活動しやすい様に室内の温度、湿度、換気、採光などを適宜調整している	3	
11 - 2	一人一人の子どもの服装、頭髪、爪などを定期的にチェックし、異常があった場合は職員間で共有している	4	
11 - 3	感染対策を職員が十分に理解し、実践している	4	
<b>12</b>	<b>災害対策</b>	<b>4</b>	<p>毎月の避難訓練では、火災、地震、津波、暴風雨、不審者などを想定して訓練を行った。マンネリ化にならないように、避難訓練のリーダー職員を変えておこなった。リーダーが変わることで、視点が変わりより多くの災害の想定が出来たのではないかと思う。また、大津波警報を想定し、全園児で上宮川文化センターへの避難訓練も行った。今後も、様々な想定を行い、備蓄用品も見直していきたい。</p>
12 - 1	災害に対する園の方針などを打ち出し、職員に対して十分に理解を促している	4	
12 - 2	園の災害対応マニュアルが周知されており、それに則り対応できるよう備えが出来ている	4	
12 - 3	消火器、火災受信機、配電盤の設置場所が分かり、操作方法を職員が把握できている	4	
12 - 4	保護者との連絡体制や引渡し方法のルールを明確にしており、保護者とも共有できている	4	
12 - 5	職員全員がハザードマップを理解し、地震や豪雨の際の園から避難場所への適切な避難経路を把握している	4	
<b>13</b>	<b>家庭との連携（在園児）</b>	<b>3.8</b>	<p>クラスだより、参観日、懇談会や日々の送迎時に子ども達の様子を伝えることが出来たと思う。また、ル</p>
13 - 1	保護者のお迎え時、職員は活動内容を伝えるだけでなく、学びや成長の変化を伝えることが出来ている	3	

13 - 2	保護者が、子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心掛け、対応している	4	クミーのアプリ配信で、写真と共に園の姿を伝えてきた。 その中で、どのような育ちがあり、学びがあるかを、さらにこれからも意識して保護者の方に発信したいと思っている。また、活動の結果ではなく、どのように取り組んできたか経過を大切にしていきたい。
13 - 3	日頃より保護者や子どもの様子を注視し、職員同士で共有する場を設け、虐待の予防や早期発見に努めている	4	
13 - 4	家庭の状況を把握するため保護者と情報交換を行い、必要に応じて関係職員と共有できている	4	
13 - 5	園だより、クラスだより、給食だより、保健だよりなどを、定期的（月1回程度）に発行している	4	
<b>14</b>	<b>家庭との連携（地域）</b>	<b>3.67</b>	
14 - 1	関係者評価や自治体など、地域の子どもについての保育ニーズを把握している	3	地域に向けては、Instagramを活用し、園内の季節の行事や、おやこカフェ、などに沢山参加してもらえた。地域の保育ニーズは市の情報を基に把握する程度となってしまったので、町内の子育て事情を自治会と連携し、把握していきたいと思う。
14 - 2	園の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかけるなど、地域交流できる機会を確保している	4	
14 - 3	地域住民から受けた子育て相談の内容について連絡、相談する外部の関係機関を把握している	4	
<b>15</b>	<b>職員の資質向上</b>	<b>3.8</b>	教育保育の資質向上に向けて、十分に取り組めたのではないかと感じるが、15-5 職員の働く時間帯、また年齢層も様々なので、決定事項の周知が難しかった。今後、全職員で共有できる工夫をし改善していきたい。
15 - 1	園内・外で行われる研修や会議に職員が積極的に参加し、資質向上を図っている	4	
15 - 2	職員が各々個人の自己評価などで課題を見つけ、その課題の解決に取り組んでいる	4	
15 - 3	職員に対して定期的に保育に関する専門書や関係書を読むなど、保育知識を習得するよう促している	4	
15 - 4	職員の保育実践について、上司や同僚から振り返り、助言をもらえるような機会を設けている	4	
15 - 5	園の決定事項について、職員が納得できるよう十分に理解を促すことが出来ている	3	